



## 第2回

# 目からウロコの

# 仏像の基本



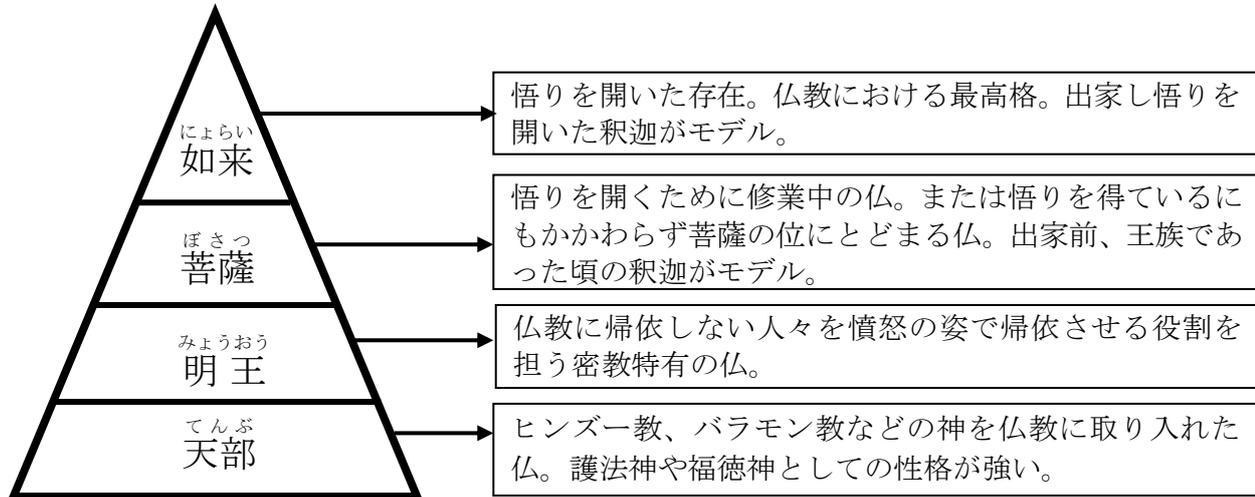
2024年6月19日

琵琶湖文化館 和澄 浩介

# 目からウロコの仏像の基本

## 仏像の種類と基本スタイル

### ◎仏像の種類



### ◎仏像の基本スタイル

- ・台座…蓮華座、岩座、邪鬼など
- ・光背…仏像の後光を表す。飛天光背、唐草光背、火焰光背、円光背など
- ・印相…仏像の能力や状態を示す手の形
- ・持物…仏像が持っているもの。蓮華、宝珠、法具、武器など

### □如来

釈迦如来、阿弥陀如来、薬師如来、大日如来などが代表的。

#### ○体の特徴

- ・螺髪→パンチパーマのような粒状の髪
- ・肉髻→頭の上のこぶ
- ・衲衣を着る→布を体に巻きつける
- ・様々な印相→定印・施無畏印・与願印・来迎印・智拳印 等

※例外：大日如来→菩薩と同じ姿

### □菩薩

観音菩薩、弥勒菩薩、文殊菩薩、地藏菩薩などが代表的。

#### ○体の特徴

- ・髻を結う→まげのように髪を結い上げる
- ・上半身は条帛（たすき状の布）と天衣（腕に絡める細長い带状の布）のみ、下半身は裙・

裳（巻きスカート）をつける。

・装身具をつける→宝冠、胸飾（ネックレス）、臂釧（腕輪）、腕釧（ブレスレット）、足釧（足輪）

・様々な持物→蓮華、水瓶、錫杖、劍、宝珠など

・如来とセットになって三尊を構成することがある。

例：阿弥陀如来+観音菩薩+勢至菩薩=阿弥陀三尊

釈迦如来+文殊菩薩+普賢菩薩=釈迦三尊

薬師如来+日光菩薩+月光菩薩=薬師三尊

※例外：地藏菩薩→頭は円頂（坊主頭）。如来と同じ衲衣を着る

## □明王

五大明王（不動・軍荼利・降三世・大威徳・金剛夜叉明王）、愛染明王などが代表的。

○体の特徴

・怒った顔（忿怒相）、逆立った髪（炎髪）

・顔、目、手などが多く奇怪な姿

・武器を持つ

・火焰光背を背負う

※不動明王は例外的に一面二臂（顔1つ、腕2本）

## □天部

四天王、十二神将、梵天、帝釈天、仁王（金剛力士）、弁才天（弁天）、吉祥天、阿修羅などが代表的。

様々な種類があり、体の特徴は一定しない。男女の区別がある。

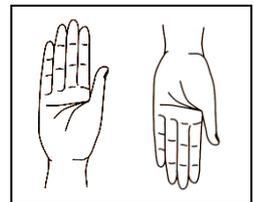
## 仏像の見分け方

### □如来の見分け方

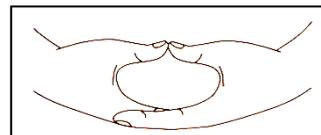
如来は姿形や身にまとうものがほとんど同じなので、手の形（印相）を頼りにして名前を推定する。

・施無畏印&与願印→多くの如来に見られるが、特に釈迦如来に多い

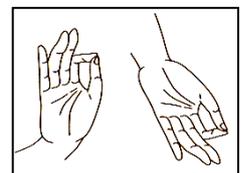
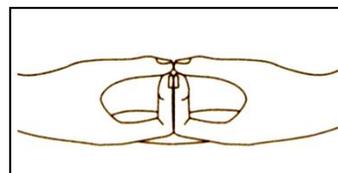
左手に薬壺が乗っていれば薬師如来



・定印→釈迦如来、大日如来（胎蔵界）に多い。



・阿弥陀の定印・来迎印→阿弥陀のみに見られる



- ・智拳印ちけんいん→大日如来（金剛界）のみに見られる



## □菩薩の見分け方

菩薩を特定する標識を見つけることがコツ

- ・観音菩薩→①頭の正面または宝冠けぶつに化仏けぶつ(小さい如来)をつける ②蓮華の台を両手で持つ ③蓮のつぼみを持つ
- ・地藏菩薩→①円頂しゃくじょう（坊主頭） ②錫杖ほうじゆ・宝珠ほうじゆを持つ
- ・勢至菩薩→①頭の正面または宝冠すいびょうに水瓶すいびょうをつける ②合掌することが多い
- ・文殊菩薩→①獅子に乗る ②団子状の髻を複数結う ③剣を持つことが多い
- ・普賢菩薩→①白い象に乗ることが多い ②合掌することが多い

## 仏像の素材と作り方（造像技法）

**木**いちぼくづくり わりほぎづくり よせぎづくり→一木造、割矧造、寄木造

全時代を通して造られる。造形しやすく、耐久性もある。平安時代以降の仏像はほとんどが木彫。日本の仏像の90%以上を占める。

**金属**→銅、銀、金、鉄

ほとんどが銅造。全時代を通して造られるが、特に飛鳥時代（6～7世紀）に多く他は少ない。造形が難しく高価だが、耐久性に優れる。

**漆**だっかつかんしつ→脱活乾漆、木心乾漆

ほぼ奈良時代にしか造られなかった。造形しやすいが、高価な漆を大量に使うため格式が高いが、非常に効果。

**土**そぞう→塑像

ほぼ奈良時代にしか造られなかったが、中世にわずかに復活する。安価だが耐久性が低い。

### ・一木造

頭体幹部を一本の木から彫り出す技法。日本で木彫像が造られるようになってから用いられ続ける。

※頭体幹部とうたいかんぶ…頭と体の中心部分。中心から外側の肩から先や坐像の脚部は含めない。

メリット→木の靈性を保つことができる・単純で造りやすい

デメリット→重い・大きい木が必要・内割りが大きくできない

※内割りうちぐ…材の干割れ（乾燥による割れ）を防ぐために像の内側をくり抜く技法。重量の軽減にもなる。

・割矧造

頭体幹部を一本の木で大体彫った後、縦に割って内刳りを施してから再度接合して仕上げる技法。一木割矧造とも呼ぶ。平安時代前期（9世紀後半頃）から用いられる。

・寄木造

頭体幹部を2材以上の木材から造る技法。平安時代中期（11世紀から）用いられる。

メリット…大きな像が造れる・大きな材が必要ない・内刳りが大きく行える・分業が可能  
デメリット…複雑で難易度が高い・構造的にやや脆弱

**仏像が造られるということとは**

仏像とは

・いつか・・・時代

・誰かが・・・<sup>ほつがんしゃ</sup>発願者

・何かのために・・・願意

・誰かに・・・仏師

造らせたものである

例①：善勝寺（東近江市）十一面観音立像

いつ・・・文明九年（1477年）に  
誰が・・・<sup>じゅざんだいし</sup>寿山大姉（女性）が  
何のために・・・<sup>しょうせんこじ</sup>祥仙居士の三回忌のために  
誰に・・・光円と祐円に

造らせた像

例②：来迎寺（甲賀市）阿弥陀三尊像

いつ・・・文永六年（1269年）に  
誰が・・・阿善？  
何のために・・・元太政大臣・<sup>さいおんじさねうじ</sup>西園寺実氏<sup>みなのか</sup>の三七日供養のために  
誰に・・・院快到

造らせた像